

収益確保策と市場活性化を

冷凍食品

冷凍食品業界は、収益確保策と市場活性化が急務であるほか、さらなる成長に向けた新商品開発がカギとなる。引き続きコストアップに値上げが追いつかない状況下、大手ブランドを中心に今春からもう一段の価格改定に踏み切るが、販売数量減を食い止め、増勢基調に転換する販促策が求められる。

'24年の酒類食品産業

冷凍食品市場は成長を続けている。特にコロナ禍で新規ユーザーが増えたことや外食需要の回復が後押しした。ただ、昨春の値上げ以降、家庭用は物量ベースでは前年を下回って推移、特に低価格帯の商品群で「200 円の壁」を境に暗く、高単価パツク品も苦戦。今後の巻き返しに

市場活性化が課題

缶詰

缶詰市場は、収益確保策と市場活性化が引き続き課題となる。干ばつや洪水など世界的な天候不順で農水産物の不作が続いているほか、原材料価格の上昇、動燃料費・包装資材費・物流費の増加は収束せず、これに円安進行と厳しい環境下にある。各社とも生産コストを抑えるべく取り組みを強化しているものの、企業努力だけではコスト上昇分を吸収することが極めて困難な状況。ウクライナ・パレスチナ情勢や欧米、中国の経済減速懸念など世界的な波乱要因が原油高や食糧相場上昇に拍車をかけて

向けた市場活性化策が急務といえる。ただ、引き続き食卓惣菜・弁当品ともに市場拡大が見込まれているほか、昨秋10月以降は潮目が変わったとの見方が出ていることから反転増勢が期待される。各社が展開している

日) した後、特にコロナ禍で一番のダメージを被った外食マーケットは、人流の増加・インバウンドの回復、ペントアップ需要によりコロナ禍前の2019年度水準を取り戻した。今後もホテル業態の拡大に加えてレジャー施設なども好調に推移すると予想されていることは明るい材料。さらに、

アフターコロナで深刻な人手不足が顕在化するなか、課題解決のために冷凍食品の存在価値はますます高まるのが想定されている。実際に、伸長するパーソナルユース、ワンプレート商品、人手不足をサポートする各社の優秀な商品群が成功例を示している。今年はず先ずは直面するコ

ストアアップについて既存商品の価格改定(新値浸透)を粘り強く理解を得ること、これと並行して付加価値の高い新次元の新商品を開発することでさらなる市場成長につなげたい。

(三浦正幹)



いる。特に一時150円を振り切るなどした円安が調達コスト、原料コストを直撃。収益を圧迫している。製品価格に直結する原料事情は依然厳しい。最大品目のツナは指標となるバンコク相場が高騰から脱したものの依然として高値推移しているほか、サバ、サン

マなど青物も記録的な不漁が続いている。フルーツ原料も国産、輸入品とも高値が続く。特に昨シーズンの国産ミカン缶は大減産し過去最低となった。今シーズンは九州地区で昨10月下旬から極早生がスタート。12月中旬から四国、和歌山、静岡、神奈川などで生産が本格化しているが、巻き返しに期待したい。国産白桃は小玉傾向で生産量は前年比8割程度にとどまった。バインアップルは主産地タイの干ばつによる減産で供給タイト。これにより、フィリピン、インドネシアも上昇傾向。各種輸入品は原料難のほか円安も加わり、国

内産との価格バランスは崩れている。一方、販売面では、値上げによる数量減が懸念材料だが、コロナ明け以降はストトップしていた業務用の引き合いが強まっていることは明るい材料だ。白桃などフルーツは、ケーキ、ゼリー、洋菓子向けが主な用途先。みつ豆も若干ながら増えてきた。サクランボは国産ニーズが高く、焼肉チェーン店ではアイスクリームのトッピングに採用されるなど人気が高い。ツナやコーン、ビーンズなど野菜類もサラダのトッピングなど素材として需要は根強い。

缶詰は常温で長期保存ができることが最大の特徴で環境にもやさしい。防災意識が高まるなかで、売り場

ヒゲタはうゆ

超特選しようゆ
本膳



料理の決め手は、
おいしいしようゆ。

課題といえよう。今一度原点に立ち返り缶詰製品の価値訴求に努めたい。

(三浦正幹)

鍵穴

成功という芽が成長していき、姿を整えていく。と云われる甲辰の令和6年が始まり、早くも3週間が過ぎようとしている。そして、明日は二十四節気の24番目の大寒。暖冬とはいえ、これからが一番寒い時期だ。▼寒中でのゴルフやアウトドアレジャーには、暖かいインナーに加え、カイロが欠かせない。自身は専ら昔ながらの懐炉を使って久しい。主にベンジンを燃料とするが、その暖かさは使い捨てと比較にならない。捨てるとは信じて止まなかったのだが。最近の使い捨てカイロは優秀で、かなり暖かく、時には熱く感じるものもある。手軽で嵩張らないし、貼るタイプや靴下用があるのも有難い。入手し易さも大きなメリットだ。▼とはいえ、基本が「懐炉」であることに変わりはない。燃料を入れ、着火する儀式が好きなのと、レトロ感満載の金属ケースも魅力だから。言うなれば、レンチンより湯煎の燗酒を好むようなもの。ひと手間かけた結果への満足感か。